

ネムロコウホネ

Nuphar japonicum

スイレン科



ネムロコウホネ

名前の由来

コウホネの根には葉柄のついてた痕跡が無数にあり、それが人間の背骨に似ていること、またコウホネの根が人間の胸骨に似ていることから「河骨」と名付けられた。ネムロは北海道の根室地方で発見された事に由来する。漢字名：根室河骨

特定種

国レッドリスト（2007）：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

北海道レッドデータ：絶滅危急種（Vu）

形態的特徴

根は池底の地中、茎は水中を伸びて葉を水面に浮かべる浮葉植物。根は池底の泥の中を横走り、分枝した根の先端から葉を出す。葉は水面の葉（浮葉）と水中の葉（沈水葉）の2つがあり、水面の葉は幅の広い卵形で幅8~15cm、長さ11~22cm（幅：長さ=1：1.1~1.7程度）、水中の葉は幅の広い卵形~円形で幅8~11cm、長さ8~11cm（幅：長さ=1：1~1.3程度）である。どちらも葉の基部は深く切れ込みが入る。花は水中から伸びた茎にひとつつき、黄色で

直径2~3cm。花びらにみえる部分は実は“がく”で、本当の花びらはがくの内側についており、がくよりはるかに小さい。花は雌しべを中心に雄しべがたくさんあつまっている。雌しべの先端は放射状に分岐するためたくさんあるように見えるが、数としてはひとつである。花後、雌しべの基部がふくらみ、緑色をした卵型の果実ができる。果実の中にはたくさんの種子が入っている。

類似種と見分け方

類似種はコウホネ。花のないときはエゾベニヒツジグサ。コウホネとは葉が似ているが、コウホネは基本的に葉を水面に浮かべず直立する。しかし、深い沼では水面に葉を浮かべることもあり、ネムロコウホネと間違えやすい。葉の大きさはコウホネのほうが大きく、幅12~20cm、長さ20~40cmで、比は幅：長さ=1：1.5~3。コウホネのほうがより細長く、ネムロコウホネのほうがより丸みがある。花があるときは、雄しべを取り出して観察すると良い。花の内部にある、中心部（雌しべ）をとりまいてたくさんついている幅の細い黄色いものが雄しべ。この雄しべの軸と葯（花粉のついてる場所）の長さがほぼ同じであればコウホネ、軸が葯よりはるかに長ければネムロコウホネ。エゾベニヒツジグサは葉が似る。エゾベニヒツジグサの葉は幅、長さとも5~15cm程度、また、形状はコウホネやネムロコウホネより丸みがあり、葉の切れ込みはより深い。葉脈は、コウホネやネムロコウホネでは葉の中心を伸びる脈から左右に出る印象が強いのにに対し、エゾベニヒツジグ

サでは葉の基部から放射状に出る印象が強い。また、エゾベニヒツジグサでは葉の基部から放射状に出る葉脈に沿って色が淡くなる場合が多い。



ネムロコウホネ。葉は水面に浮き、葉の中心から左右に筋が出る



類似種のエゾベニヒツジグサ。葉の基部から筋が放射状に広がる



類似種のコウホネ。葉が直立することが多い

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■■■■								
結実期					■■■■							

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（葦原・樹林）
鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

湖沼や池に生育する。

分布：国外分布は、ユーラシア大陸の寒冷地。

国内分布は、北海道と本州北部。

道内分布は、主に道東と道北。

十勝地方では、十勝川下流域の池沼に生育している。

生活史

開花時期：7～8月

開花までの年数：不明

寿命：多年草

他生物との関わり

ネムロコウホネのような水草は、トンボや底生動物、魚類など水域に生息する動物の産卵場所や隠れ場所となる。

キタイトトンボやルリイトトンボなどのイトトンボ類は、ネムロコウホネのような浮葉植物や沈水植物の組織内に産卵する。

興味深い話

■コウホネは漢方では「川骨（せんこつ）」といい、10～3月に泥の中で横に長く伸びた根茎を掘り上げ、乾燥したものをを用いる。浄血および止血薬として産前、産後の出血、月経不順など広く婦人病に用いられる。

■十勝地方でのネムロコウホネのアイヌ語名は不明。

■コウホネを幌別ではアイヌ語でカパトといい、アイヌの人々は根茎や実を食用にした。冬に沼の氷を割って根茎を採集することもあれば、夏から秋のヒシの実採りのときに一緒にコウホネの根茎を採集することもあった。薄く切って、水にさらしてあくを抜いてから食べたり、刻んで汁に入れたりして食べた。あく抜きした根茎を干して保存することもあった。地方によっては実を採集して、つぶれるくらい煮たものを米にまぜてお粥にして食べたりもした。

配慮事項

ネムロコウホネが安定して生育するためには水深50～150cm程度、泥底の環境が必要である。

ネムロコウホネは日本や北海道で絶滅のおそれのある種に指定されている。ネムロコウホネが生育できるような水域



ネムロコウホネの群落



ネムロコウホネに訪れたルリイトトンボ



ネムロコウホネの花



ネムロコウホネの根茎と根

は年々減少している。

ネムロコウホネが生育するような環境は、トンボ類や底生動物、魚類にとっても重要な生息場所である。

魚類

底生動物

爬虫類
両生類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

参考文献

「日本の野生植物 草本II」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「日本水草図鑑」角野康郎 文一総合出版1994

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「野草の名前 夏」高橋勝雄 山と溪谷社 2003

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995

「原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑」杉村光俊・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木典司 北海道大学図書刊行会 1999

「北海道薬草図鑑 野生編」山岸喬 北海道新聞社 1992

「知里真志保著作集 別巻I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976